



1. 東日本大震災からの復興と日本再生

○出席者;モデレーター 鈴木悌介;パネリスト6名;総人数30名

○議論で抽出されたキーワード

小さな循環／共に生きる／人と人とのつながり／次世代に何を残すか

○東日本大震災の復興の継続的支援のためのアクションプラン

- ・被災地に復興、復興のための仕組み＝会社を立ち上げ、それをサポート
 - －「小さな循環」をキーにして、地域で雇用を創り、地域でお金が回るしくみを小規模につくる
 - －非被災地は、自らの得意技を活かし、サポートを推進、コヨ連携のうねりを

○「新たな暮らし方」に向けての行動、実践宣言

- ・その地域の資源を活かした地域住民によるエネルギー自給のための会社設立
 - －エネルギーを自分の問題と捉え、エネルギー源として自らの地域の資源を見直し、掘り起こし、人と人との顔の見える関係も構築する

⇒志民によるエネルギー独立宣言へ！



2. 農林漁業の再生と地域の自立

○出席者; モデレーター 長野麻子; パネリスト6名; 総人数30名

○議論で抽出されたキーワード

いのちのつながり、循環／知識より知恵・暗黙知・百姓の体験的技術
地域おこしの原点は農林水産業／本当の味を伝える食はいのちの源
他人任せから自ら考え動く6次産業

○東日本大震災の復興の継続的支援のためのアクションプラン

- ・流域ごとにいのちの自給、循環体制の構築(森里海連携)
- ・小さな支え合いの継続的システムの実践(ex復興キャベツ・トマト...)
- ・地域内の宝(土着菌、微生物等)を活かし、南相馬に必ず農業を復興させる
- ・風評被害を生まずに「正しく恐れる」「自ら考える」そして「支える」

○「新たな暮らし方」に向けての行動、実践宣言

- ・国、自治体をあてにせず、小さくてもできることを続ける
- ・東京を兵糧攻めにする！
- ・南砺から本物の人が食べるものを伝え、広げ、生き方としての農業を伝える



3. 日本再生を支える新たな金融の形

○出席者;モデレーター 神津多可思;パネリスト6名;総人数18名

○議論で抽出されたキーワード

- ・資本主義の欠陥を補う志本主義—その時重要なことは、
 - ①顔の見える金融、②人と人がつながる金融、
 - ③預金—貸出以外の新たな金融

○東日本大震災の復興の継続的支援のためのアクションプラン

- ・ペアリング支援の充実・・・日常的つながり
 - ・二重ローン問題への取り組み・・・回収不能は財政補填、事業継続可能事業
- は新たな金融も活用

○「新たな暮らし方」に向けての行動、実践宣言

- ・顔の見える金融—地元の「目利き」力の活用と各種ストラクチャーの創出
 - ・人と人とがながる金融—地域外の人を持つ「発見力」を使った価値創造
 - ・預金—貸出以外の金融(元本保証なし資金の供与)
 - LLP+LLCスキーム／地域企業支援の投信／銀行の資本性資金供与に
- 公的信用促進



4. 日本復興のアジアへの貢献

○出席者;モデレーター 中井徳太郎;パネリスト7名;総人数22名

○議論で抽出されたキーワード

- ・バラバラで一緒に!
- ・3. 11は新たな時代のフィロソフィーをアジア、世界に理解してもらおう契機となる
- 中・長期／双方向／持続可能／自然のおきて等

○東日本大震災の復興の継続的支援のためのアクションプラン

- ・食、エネルギー、健康医療の自立・分散
- ・環境再生の実践をローカルから志民が実践
- ・これらをアジア規模で仲間を募り一緒にやる

○「新たな暮らし方」に向けての行動、実践宣言

- ・身の回りから仲間を増やし、社会を変える
- ・ローカルサミットの哲学を信念を持って志民一人一人がコミットする



5. エネルギーの地域内自立

○出席者;モデレーター 鈴木博晶;パネリスト6名;総人数25名

○議論で抽出されたキーワード

超集中型から分散型へ／方法は多様化し、地域毎に解決／新たな公／
卒原発

○東日本大震災の復興の継続的支援のためのアクションプラン

- ・地域自給モデルを示し、応用を促す
- ・地域で創った余剰エネルギーを都市へわたして発想へ
- 「お上の言うとおりに、お上から与えられるものを受け入れる！」から、
「地域が自立し、エネルギー事情を地域毎に解決する」へ変革

○「新たな暮らし方」に向けての行動、実践宣言

- ・南砺だからこそそのエネルギーに関する取り組み指針を策定！
- 土徳(集落が自立分散し、かつ結びつきが内外に強い)ゆえ、地域内での話

し合い、技術ノウハウは北陸電力を活用

- エネルギー源;雪、水(小水力発電)、地下水地中熱、木質
- 留意点;自分達でつくった電気で目に見えるものを／都市部⇔山間部の



6. 「次代を担う子供たちの育成」

○出席者；モデレーター 井上ー；パネリスト7名；総人数17名

○議論で抽出されたキーワード

いのちのつながり／すべての大人が覚悟（行動、判断の中心をこどもにおく）
こどもが認められている感をもつ／すべてのいのちは支えあいの中で存在

○東日本大震災の復興の継続的支援のためのアクションプラン

- ・利賀地域にあるすべての大人がこどもにかかわり合っていくという在り方を発信していく
- ・明治～戦後のあり方を問うことを、大震災後において本当に大切なものは何か（いのち！）に気付き始めている今だからこそ、発信する

○「新たな暮らし方」に向けての行動、実践宣言

- ・利便性全てを放棄するのではなく、南砺の風土に色濃く残る、いのちのつながり、お互い様、おかげ様の本質をいかに残していくか？
- ⇒学校の枠をこえ、普段の生活の中心、こどもはかけがえのない存在であることを再考、徹底的に意識し、知識ではなく共感で理解してこどもに伝えていく



7. 行政と志民をつなぐ新たなセクター

○出席者;モデレーター 山崎正治;パネリスト6名;総人数30名

○議論で抽出されたキーワード

- ・行政がまちづくりを運営するのはno
- ・市、県、国に提案し、予算を取ってもらい、私たちが提案する
- ・市民も成熟した「citizen」になれ

○東日本大震災の復興の継続的支援のためのアクションプラン

- ・「ふるさと納税」の活用
- ・たくさんの選択肢をよそ者が提案し、被災地がその中から選出
- ・地元金融機関がまちづくりに対して融資でなく出資出来るよう法律を改正

○「新たな暮らし方」に向けての行動、実践宣言

- ・志民一人一人がまちづくりに参加(「私がやります」のまちづくり)
- ・一人ではかなわない場合に、志民のネットワークが応援し、その中に行政マンも入る
- ・随意契約(最大効率のアイデアとの契約)の復活を



8. 祈りある暮らし

○出席者;モデレーター 太田浩史;パネリスト4名;総人数17名

○議論で抽出されたキーワード

- ・平和の基礎は家庭にあり、仕事とくらしを分断してはならない
- ・敬天愛人(西郷隆盛)ノヨコ軸のきずなよりタテ軸のきずな
- ・知恩報恩
- ・祈りは共有するものノ共同体を支えるいのち

○東日本大震災の復興の継続的支援のためのアクションプラン

- ・共通の祈りの形をつくる
- ・土徳同志のふれ合いと被災地にかかわる事は自らの土徳をよみがえらせる事
- ・お金やモノではなく、自然や風土の復興支援

○「新たな暮らし方」に向けての行動、実践宣言

- ・暮らしの知恵、仕事の知恵を教育に活かす
- ・精神の向上を至上の価値とする文明
- ・いもこじ(南相馬)、お講(南砺)、共に触れ合うことによってお互いの皮をむき、

自己を明らかにするための他者との交わり



9. 生と死の結び方

○出席者;モデレーター 色平哲郎;パネリスト4名;総人数21名

○議論で抽出されたキーワード

- ・富山型デーサービス／へき地医療／保健医療・予防医療／心が折れてしまう社会

○東日本大震災の復興の継続的支援のためのアクションプラン

- ・医学部学生がニーズにマッチしない
- ・「お互い様、おかげ様」によってたかって世話をする
- ⇒働く場をつくることが若い人に伝わっていく道筋となる

○「新たな暮らし方」に向けての行動、実践宣言

- ・山谷での生活支援と高山型デーサービスにみる古きよき日本の姿
- ・出合の場等をつくることで、地域に雇用が生まれ、地域でお金が廻る
- ・生活保護を若者の雇用の場にして、福祉に生きたお金が廻る